

名古屋西南ロータリークラブ Weekly Report

安江英雄会長年度テーマ

絆を継続し、力を、協力を強めよう

例会場 名古屋クレストンホテル TEL 052-264-8000

例会日時 木曜日 12:30

クラブ会報広報委員長 二俣景一



2006-07 年度 RI 会長
ウィリアム B. ボイド

承認 1995.3.28

会長 安江英雄

幹事 後藤 徹

事務局 名古屋市中区栄 3-29-1

名古屋クレストンホテル 1007 号

TEL 052-263-1324

FAX 052-263-0730

Email seinan1@fancy.ocn.ne.jp

HP <http://rc.nagoya-seinan.org/>

第567回例会 No. 27 平成19年2月8日(木) 晴

■ ローターソング	「手に手つないで」
■ 出席報告	会員49名中28名出席
■ 出席率	62.22% 出席計算人数46名
■ 修正出席率	1月25日 95.65%
■ ゲスト	米山奨学生 呉燕さん

会長挨拶

安江英雄

(前回からの続き)



そば粉が粉にされ“そばがき”“そば餅”などにして食べられるようになったのは、鎌倉時代、臨済宗の僧聖一国師が仁治二年(1241)に水車製粉の技術を中国から持ち帰ってからだといわれます。私の

父も、私が生まれる昭和8年少し前に水車を使って、精米したり、小麦粉を挽いたりして商いをしていたそうです。それまでは、ボソボソとした粘りの無い“そば米”だけを食べていた人々にとって、そば粉に熱湯を注いで練り“そばがき”や“そば餅”にして食べるということは画期的な食べ方だったわけで、どんなに喜んだことでしょう。そば粉が“そば切り”と呼ばれる“めん”になるのは、天正年間(1573~79)ともいわれていますが(このことは、昨年10月頃お話ししたいと思います)一説には江戸時代初期に朝鮮から渡って来たという僧、天珍が南都の東大寺に来て、そばの“つなぎ”に小麦粉を使うことを教え始めて、そば粉で作っためんが出来あがったとも伝えられています。

このそばめんが、平たくのばした生地を何枚にもたたみ端から細く包丁で切ったもの、そば切りの名はこの製法からついた名前です。以後、現在に至るまでそば切りは日本そばとして親しまれています。



ニコBOX

安江会長 カンボジア組お帰りなさい。ご苦労様でした。IMにご出席の方、有難うございました。

岩田さん 息子が中学2つ合格しました。あと2つあります。

矢野さん カンボジアに行ってきた。色々大変でした。

水野さん カンボジア訪問、無事帰れました。皆様のおかげでクリニックも充実しました。有難うございます。

近藤さん 私の家内の誕生日にお祝いを有難うございました。

長谷川千廣さん 誕生日をいただき有難うございました。

大平さん 昨日のIM、非常に有意義な会でした。当クラブにも、原点に戻ってロータリーの真髄を勉強する機会と思い、加納パストガバナーに卓話をお願いをして参りました。今日は私の誕生日です。ケーキ有難うございました。

吉田さん、中村さん ローター情報ミーティングでは、西南RCの歴史を中川さんに良く説明をして理解してもらい、とても有意義であったと思います。

橋部さん 全日本シニア、ソフトボールハワイ親善試合にイースト軍の監督として、2/11~2/17まで行って来ます。

●本日は米山奨学生 呉燕さんの卓話です。宜しくお願い致します。後藤幹事、吉田、西川、西垣、森田、河原、藤野、和田、二俣、中川、松尾、後藤晋児(敬称略)

●本日は「友愛例会」です。たくさんの人と有意義に語らしましょう！ 後藤幹事、二俣、和田(敬称略)

本日合計 53,000円

0708 年度地区委員会委嘱状伝達



ロータリー未来委員会委員 藤田守彦
ロータリー財団委員会副委員長 藤田守彦
会員増強委員会委員 水野裕善
ガバナー事務所分室運営委員会委員 藤田守彦
研究グループ交換委員会委員 西川 博
(藤田さん、水野さんは2月1日例会にて伝達致しました)

卓 話

日本に出会った私

ロータリー米山奨学生 呉燕



小さい頃に、ドラエモンや一休さんが放送されていました。画面に映っている綺麗な家や景色がとても印象的でした。少し大きくなってからはいくつかの日本のドラマを見ていました。ドラマの名称をあまり覚えていませんが、日本人の頑張りぶり、礼儀正しさにとても感動していました。そのドラマの一つは、両親を亡くした少女が主人公でした。その少女は小雪という名前です(大学時代に、友達と一緒に昔のドラマについて話した時に、友達からその女優は小泉今日子であることを教えられました。みんなはこのドラマを懐かしそうに語っていました)。小雪の父親は音楽学校の校長先生の息子さんであり、母親はその校長先生の家で働くお手伝いさんでした。校長先生は息子がお手伝いさんと恋愛をすることを知り、大反対し、小雪が生まれる前に、その母親を家から追い出してしまいました。その後、小雪の母親は貧しい生活と病気に苦しみ、幼い小雪を残したまま他界しました(小雪の父親がどうやって死んだのか、あまり覚えていません)。小雪は天賦の音楽才能を持っています。ピアノがとても上手です。しかし、貧しいため、ピアノを買うことができませんでした。小雪はピアノがないにもかかわらず、ピアノに対する熱意を持ち、床を叩きながら、ピアノの稽古をしていました(このシーンはとても感動的であり、今でも良く覚えています。そもそも、これが私がこのドラマに引かれた理由であるかもしれません)。生まれつきの音楽才能と絶えまない努力で、小雪は希望通りにお祖父さんの

音楽学校に入りました。しかし、小雪はお祖父さんに家族の一員として認められていないし、同じ音楽学校に入っているお爺さんのもう一人の孫娘にいじめられていました。小雪はこれらの不平等な扱いに屈せず、努力し続け、ようやくその自分をいじめるいとこのコンテストで、見事に優勝しました。この、困難に屈せず理想に向かって努力する小雪は、私にとっても大きな力と影響を与えてくれたといえます。

私は外国語と外国の文化にとっても興味を持ち、高校まではずっと英語を第一の外国語として勉強し、一番得意な科目も英語でした。大学入学試験の前に、専攻を選ぶ時に、私は外国語を専攻にするという方針を決めました。そして、英語のほかにもう一つの外国語を勉強し、その国の文化を理解しようと考えました。この時、私が一番探求したかったのは、綺麗な景色と素晴らしい精神を持つ日本でした。そこで、南京大学の外国語学部日本語学課を選びました。このように、私は日本への船に乗り始めました。

大学で4年間毎日のように日本語と接触しました。はじめの頃は、英語の場合、だいたい発音を覚えれば単語の構成がもうわかるのに対し、日本語の場合、発音と書き方両方を覚えなければならないし、音読みと訓読みもあるし、「いいです」などの用語のように、場合によっては意味が正反対であるというような文法を教わり、英語専攻の友達を羨ましく思うほど辛い日々でした。先生に日本語の練習をさせられる時にも、思わず英語で話してしまうことがありました。しかし、これは入門の数ヶ月だけであり、その1年後、私たち日本語専攻の学生は、もう英語より日本語で話したほうが楽であると感じるようになりました。さらに、ある日、英語の授業で先生が出席を取るところ、名前を呼ばれた友達の一人が思わず「はい」と答えました。みんな爆笑しました。しかし、これはまさに私たち日本語専攻の学生の気持ちでした。

このように、辛い日もあり、楽しい日もある大学時代を送っていました。私は外国語の勉強が好きとはいえ、文法の勉強が大嫌いでした。言葉を流暢に話すのは、まず文法ではなく、その言語に対する感覚が大事だと思ったためです。そこで、外国語を母国語のように流暢に話せるようになるには、やはりその国に行かないと、いくら文法が正しくても、おかしいところがあると思いました。更に、実際にその国へ行かないと、その国の文化に対する理解が難しいと思いました(このことは、今日本に来ている私が特に感じていることです。例えば、中国で、日本料理は味が薄いと聞いたため、おいしくないだろうと思いました。日本に行ったらダイエットできるかもしれないという期待をもっていました。しかし、今の私は日本料理をおいしく食べているし、体重もちろ減っていません。当初の日本料理がおいしくないという思いは全くの勘違いでした。中国人の食に対する考え方で日本料理を理解したからです。中国人が味付けや料理法を重視するのに対し、日本人は食材そのものを味わおうとしています。このような日本的な考え方で日本料理を味わえば、あっさりした食感の日本料理はまさに自然のおいしさを生み出しています)。

外国語学部で勉強するにつれて、外国語はあくまでも人とコミュニケーションする道具であり、外国語だけでは専攻にならないと感じるようになりました。外国語を使って、もう一つの学問を研究したほうが良いと思いました。そこで、私はずっと法学に対して興味を持っていましたし、天下の公平をはかる法律家にとっても魅力を感じていましたので、日本へ留学し、日本語で法学を研究することを決意しました。

でも、この日本へ留学する考えは家族に反対されました。金銭的な原因もあり、娘一人を海外に行かせることに対する親の心配もありました。しかし、両親は反対とは言えやはり民主的で、「自分の人生は自分で決める」という方針でしたので、これからは娘から金銭的な支援を受けのんびり過ごすべきであるのに、娘の留学のために、一生懸命働き続けました。

このように親から金銭的な支援を受けることができませんでしたが、精神的には反対されているので、留学に関する手続きを全て自分一人で行い、かつ親や親戚の消極的な態度と戦いました。いま振り返ってみると、当時、周囲からの圧力がどんなに大きかったことか、それに対し私の意志がどんなに強かったことか、自分でも感心するほどです。これはもしかして小雪から影響を受けたからかもしれません。

2004年10月2日、私はようやく希望通りに日本への飛行機に乗りました。親は心配そうな顔で空港まで送って来てくれましたが、私の気持ちは正反対で、何も心配せずに喜んで日本に向かいました。これから親戚一人もない日本で、どのような困難に会い、どのように解決するかなどについて一切考えませんでした。困難が待っていることを考えなかったわけではないのですが、自分が努力すれば、きっと困難を解決することができるという自信を持っていましたし、両親に甘やかされた自分を困難に晒させたほうが良い、どの道でもローマに行けると思いました。

日本に来たはじめの半年は、名古屋大学法学研究科の入学試験を準備するため、アルバイトを一切せず、親の仕送りで暮らしていました。なるべく節約してはいたのですが、親が一生懸命貯めてきたお金を、中国では想像できないスピードで流出させることについて、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

2005年4月に、入学試験に合格したため、名古屋大学法学研究科に入学することができました。そうすると、入学金や授業料などを払わなければならないし、生活費も確保しなければなりません。親からの仕送りだけではいつの日にか生活が成り立たなくなるし、親の支援で生活をしていくことにとても恥を感じていましたので、アルバイトをしはじめました。

私は途中で法学を勉強しはじめたので、法学の基礎が弱いし、日本に来たのは法学の勉強が主な目的であるため、なるべく多くの授業に出たほうが良いと考えました。しかし、このような考えはアルバイトで自立しようという考えと大きく衝突しました。勉強に時間を譲ればアルバイトの時間がなくなるし、アルバイトに時間を譲れば勉強ができなくなります。さらに、アルバイトをしないと、授

業料などを払えなくなり勉強ができなくなるし、アルバイトをし過ぎてしまうと、同じように勉強ができなくなるという矛盾を感じました。このように、勉強とアルバイトをいかに両立させるかについて悩み続けました。結局、やはり主な目的である勉強のほうを重視し、なるべく多くの授業に出ることにしました。普段のアルバイトの時間を少なめにし、冬休みや夏休みなどの休みになるべくたくさんのアルバイトをしようと考えました。

このように、普段のアルバイトの時間が少ないため、生活はぎりぎりでした。大学の留学生寮には1年間しか住めないため、家賃の安い木造のアパートに移りました。古い木造の部屋なので、冬になると寒くてたまりませんでした。そこで、ずっと研究室にいて、寝なければならぬ時間になってからしか家に帰らなかった。家に帰るとすぐ布団に入るのですが、二重の厚い布団をかけても、夜明け頃に必ず寒さで目覚めてしまう日々でした。このように寒さと対抗する生活をしながら、キュリー夫人がフランスに留学した時にもベンチでエクササイズをしながら寒さと対抗した話で自分を励ました。また、住まいの状況が良いとは言え、大学に近いし、たくさんの友達がいるため、とても楽しく過ごしました。

2005年の秋頃に、試してみようという気持でロータリーの米山奨学金を申請しました。お金に苦しんではいるものの、奨学金の申請はとても難しいし、奨学金はもともと支援を提供する方々からの好意であり、自分がもらうべきであるわけではないから、もしもらえるならば運が良いという感じで申し込みました。そして、2006年の3月頃に大学から、ロータリーの米山奨学金の件で、連絡先などの確認のため教務に来てほしいとの連絡が来ました。申請する時に、3月頃に大学の教務から結果を知らせると伝えられたので、まさか合格したのかと不思議に思いました。そして、教務から合格したことを伝えられ、夢を見ているのではないかと疑うほどでした。

このようにして、私は西南ロータリーの方々のお世話になりました。この一年間、クラブからご支援をいただき、アルバイトと勉強の両立問題に悩むことなく、安心して修士論文を書くことができました。それだけではなく、授業との調整が難しいため、月に一回しか参加していませんが、このような例会に参加することにより、各分野で活躍されているロータリーの方々とコミュニケーションすることができ、いろいろと勉強になりました。更に、時々クラブの方々に宴会などに誘われ、とても視野を広げました。

去年の12月に、指導教官の浜田先生と一緒に忘年会に出席させていただき、とても楽しい一晩でした。みんなで手をつないで円を作った時に、いまの自分は一番幸せな人間だと思いました。2005年のこの頃の私は、暖房のないところでおせち料理の準備のアルバイトをしていました。晴れている外よりも温度の低いところで、1日立ったまま数の子の皮を剥いたり、冷たい水で洗ったりしていました。まさに今の私を想像することもできませんでした。

「千と千尋の神隠し」の主人公である千尋は奇妙な世界で一生懸命醒めようとしていましたが、私はロータリー

の奨学生であるこの夢を、ずっと見続けて醒めたくないぐらいです。しかし、ずっと親から支援を受けるわけにはいかないことと同じように、ずっとロータリーの方々からご支援をいただくわけにもいきません。この一年間、ロータリーの方々に美しい童話を作っていただきましたが、これからは、自分の手で童話を作っていかなければなりません。

これからもいろいろな困難に会うと思いますが、また日本に初めて来た時の心境で、小雪のように、困難に屈せず、理想に向かって頑張りたいと思います。

以上、私のスピーチを終わらせていただきたいと思います。ご清聴をどうもありがとうございました。

☆☆次回例会のご案内☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

2月22日(木) 第569例会 外部卓話

豊橋素人歌舞伎保存会 大向 今泉 謙吉氏

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

ロータリーの友 WEB Site より抜粋

ロータリー基礎知識

「PETS と地区協議会」



ロータリーは、単年度が原則です。毎年7月には、国際ロータリーも、地区も、そ

してクラブも、すべての役員が交替します。ガバナーエレクトが、国際協議会の研修を終え帰国すると、今度はクラブの次年度役員の研修が始まります。

これらの研修会は、「PETS」「地区協議会」と一般に呼ばれていますが、そこでは一体、どんなことが行われているのでしょうか。地区やガバナーエレクトによって特色がありますが、ここでは基本的な部分を紹介します。

PETS (Presidents-Elect Training Seminar)

Presidents-Elect Training Seminar (会長エレクト研修セミナー) の省略形が「PETS」。「ペッツ」と呼ばれていますが、文字通り、地区内各クラブの会長エレクト(次年度7月1日からクラブ会長になる人)のための、研修・教育を行う情報提供プログラムです。

クラブ会長の能力、知識、やる気を育成することが目的となっています。その「目的」を、具体的に『会長エレクト研修セミナー(PETS) 指導者用手引き』P1「計画と組織」から引用しますと、

- ・クラブの会員基盤を維持し、増大させる。
 - ・地元および他国地域社会のニーズを取り上げた成果に溢れたプロジェクトを実施する。
 - ・資金の寄付およびプログラムへの参加を通じてロータリー財団に支援する。
 - ・クラブのレベルを超えて奉仕できる指導者を育成する。
- ということになります。

PETSの開催時期は、毎年3月中に、原則として1日半の日程で、行われることになっています。セミナーの主催者は、国際協議会で先に研修を済ませてきたガバナーエレクト(次年度ガバナー)です。

ガバナーエレクトは、現ガバナーやガバナー補佐とも協力し、地区研修リーダーに指示してPETSを監督します。地区研修リーダーは実際にセミナーを計画し、その実施に責任をもちます。セミナーの指導チームは「資格の備わったパストガバナー」と、地区委員会委員長で構成されますので、経験豊かな地区の人たちに、一度に身近に接することができる良い機会ともなります。

研修では、来る年度のR(国際ロータリー) テーマや、効果的な奉仕プロジェクト、ロータリー財団についての説明や紹介、情報伝達が行われます。ガバナーエレクトが、国際協議会でR会長から直接聞いた、新年度のRテーマに対する思いやその印象、次年度のR会長の方針など、研修後間もない、ガバナーエレクトの新鮮な話や方針を直接聞ける、絶好の機会です。

また、クラブ会長の役割と責任の検討、目標の設定、クラブ役員の選定と準備、クラブの運営、新会員の勧誘と説明指導、Rと地区の有用資源なども取り上げられます。

セミナーの具体的な構成メニューを、『手続要覧 2004年』P42 から引用すれば、

- ・年次テーマの提示
 - ・クラブ会長の役割と責務
 - ・目標の設定
 - ・クラブ指導者を選任し準備させる
 - ・クラブの管理運営
 - ・会員の勧誘とオリエンテーション
 - ・効果的な奉仕プロジェクト
 - ・ロータリー財団
 - ・支援源—どこにあり、それらをどのように使うか
 - ・年度計画
- となります。

こうして、クラブ会長エレクトは、次年度のRテーマを踏まえ、ロータリープログラムを実施する準備が整うのです。また、このPETSにより、クラブ会長エレクトは、新たなロータリー年度におけるクラブと、地区の活動を企画し、指導者を喚起し、地区運営についての情報を、クラブに帰って仲間に提供できるのです。

なお、世界では、2つ以上の近隣地区が「多地区合同PETS」を実施する場合があります。多地区合同PETS主催グループは、必然的に多数の協力者が得られるので、バラエティーに富んだ講演者を迎えることができますし、次期クラブ会長に地区を超えた視点を提供し、効果的なクラブ指導のための、多岐にわたる方策を発案できる、という利点もあります。

(地区協議会については、次号に掲載致します。)

『ロータリーの友』2005年3月号掲載

参考・引用

『手続要覧 2004年』、
『会長エレクト研修セミナー(PETS) 指導者用手引き』、
『地区協議会指導者用手引き』など